

高橋 宗也



県政レポート 2022年 冬号



防災力の抜本的な強化に向けて

2022年も師走を迎えました。今年も7月に豪雨災害が発生。大崎市など県内各地で住宅への被害が発生するなど、防災力の強化はより必要性を増しています。一方で、豪雨災害のたびに、ヨシヤカヤ、ワラなどが大量に海岸に流れ出て漁業や観光に問題が発生しています。今回は、県により早期撤去が実現いたしました。今後も、改善に向けて調整を進めていきます。

また現在、コロナ禍、ウクライナ情勢、円安等に伴う諸物価の高騰が続いています。県では対応する補正予算を約401億円を追加計上いたしました。医療・福祉・農林水産・運輸・製造など、コストアップがすぐには転嫁できない分野の事業継続に向け対応していきます。

県議会では、一般質問に加えて、会派を代表した総括質疑等に登壇いたしました。決算総括質疑では、東日本大震災からの復興10年と検証と今後の防災力強化、子育て教育環境の強化策を提言し、知事・教育長から政策・予算に反映する旨の答弁を得ました。

11月から、会派の事務局長を拝命し、議会県政の最前線で仕事をする機会をいただきました。引き続き、国・県・市それぞれ連携し、命と生活・経済を守る政策を全力で推進いたします。

県議会の役割

平成29年5月～県議会議員。
令和元年11月～2期目。

※前職・東松島市役所復興政策部長。東日本大震災時から一貫して復興業務等を担当。

【宮城県議会】 建設企業委員会常任委員長、文教警察常任委員会委員長、環境福祉常任委員会委員長を歴任。農林水産委員会、東日本大震災復興調査特別委員会委員。

【自民党・県民会議】 事務局長。

【議連役員】 農業議員連盟幹事長。水産漁港議員連盟事務局長。SDGs推進議連事務局長。防衛議員連盟事務局長。防災議連副幹事長。ほか、サイクルツーリズム、日台友好、宮城オルトレイル推進、行政書士議員連盟等の役員。

【超党派議連】 宮城県スポーツ議員連盟幹事長。宮城県ILC誘致議連事務局長。宮城県私学を支援する県議の会幹事長。ほか

2022年度12月追加補正県予算「401億円」、物価高騰対策等の強化



コロナ対応と物価高騰対策を予算化



観光交流の復興に追加配分

コロナ	医療機関等の支援費	約12億6,900万円
福祉	社会福祉施設等原油高騰対策費	約1億9,300万円
	高齢者施設省エネ導入支援費	約2億1,900万円
	障害福祉施設省エネ導入支援費	約2億9,900万円
教育	私立学校原油高騰対策費	約1億7,500万円
	交通事業者等支援費	約4億9,100万円
運輸	貨物運送事業者支援費	約5億5,000万円
	倉庫事業者原油高騰対策費	約2億7,100万円
	土地改良区原油高騰対策費	約2億1,650万円
農水	水産業電力コスト削減支援費	約1億6,500万円
	畜産生産資材価格高騰対策費	約2億9,000万円
	肥料価格高騰対策費	約6億9,300万円
	観光	宿泊・観光創出支援費(宿泊割等)
復興	省エネ家電等購入支援費	約1億2,300万円

宮城県議会一般質問 高橋宗也 質問の要旨



県議会において一般質問に登壇し、新たな津波浸水区域の想定に伴う復興事業との関連、市町の防災施設整備に関する補助制度等について政策提言と質疑を行いました。

また、物価上昇と農林水産業の振興、食料自給率の向上と県産米の消費拡大、水産養殖の振興策等について、執行部に対応を要求。一部は予算や政策・事業に反映されました。

新たな津波浸水想定拡大に伴い、防災設備の強化が必要になる 沿岸市町の防災計画の変更や財源確保に向け、支援が必要

- ①今回、津波浸水想定が大幅に拡大されたことによって、沿岸の基礎自治体は防災計画の変更や、それに伴う防災施設の整備等が必要になるが、現行の補助率は1/2(質問当時)と低く、市町にとっては大きな負担になる。支援強化が必要。
- ②津波ハザードマップ等の見直しに向けたスケジュールや県としての関与は。

【知事答弁】 県が公表した津波浸水区域は最大クラスの津波と悪条件が重なって発生した場合を想定している。ハード施設整備の現行補助率は1/2だが、国費強化に向け国と調整する(※その後、国の強化地域に指定され2/3に改善)。県独自の支援策も合わせて検討していきたい。

【復興・危機管理部長答弁】 ハザードマップ等の改定は、住民の行動に結びつくよう理解と周知が必要になる。市町と協議し、支援と連携強化のうえ、鋭意取り組む。

物価が高騰するなかで「米価」は低迷している 消費拡大と生産から消費までを県内で行う仕組みづくりを

- ①宮城米の価格を押し上げ、食料の安定供給と農業の持続的発展を期していかなければならない。県産米を活用し「学校給食用の米粉パン」をつくり、子どもたちに米の美味しさを示しながら、農業と教育と産業の連携を県レベルで実現している山口県の事例も参考に、新たな宮城のモデルを構築していくことが必要。
- ②宮城産養殖ギンザケのユサに、宮城米を約3割近く使用し、新たな農業と水産業の連携の仕組みが新たに始まった。飼料だけに留まらず宮城米を他分野でも活用し、価値を高めていくことが必要だ。今後の対応を問う。

【農政部長答弁】 ①我が県では、米飯給食についてはほぼ全ての小中学校で「みやぎ米が提供されるようになったが、米粉パンについては、まだ進んでいない。県内産小麦を活用した給食パンを今年から約50%まで引き上げた。生産から消費に至るバリューチェーンの構築など、条件を整えながら米を含めて地産地消を進める。

②ギンザケのようなブランド確立も目指しつつ、県漁協、JA、東北大学等と連携し、産業の垣根を超えたモデルづくりを強化する。飼料米の要望は、生産量以上に高まっており、飼料米の生産も強化していく。

地球規模での環境変化によって、水産業は危機に瀕している 従来型の「県漁業振興計画」から温暖化対応プランに

- 特に県内でも、湾内の沿岸養殖業は温暖化の影響が著しく、海苔や牡蠣の生産現場では大変な状況となっている。漁業振興のプランは、環境激変に応じ、温暖化対策に大きく舵を切っていく必要が生じている。今後の早急な対応を求める。

【知事及び水産林政部長答弁】 海洋変化による不漁や養殖業の厳しさについて認識している。種苗生産の試験研究の促進や新たな閉鎖循環式陸上養殖研究施設を整備するほか、根本的な海洋環境や社会経済の変化にも対応できる生産体制の強化に向け「水産県みやぎ」確立に取り組んでいく。



パネルを活用しての質疑



防災対策の強化には財源が必要



宮城米の復興と新たな仕組みづくりを



水産業は環境問題に直面している

トピックス



大曲地区に信号機を新設



ろう者サッカー協会と連携協定



桜回廊、記念植樹式

決算特別委員会 総括質疑

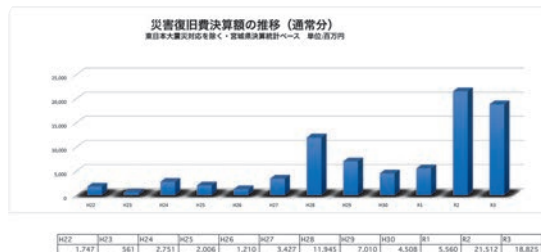


県議会では、決算審査の際、全議員で構成される決算特別委員会が設置されます。高橋は、会派を代表して総括質疑に登壇し、財源や基金等についての質疑や、以下のような分野における重要課題等について、知事及び当局に対し、令和3年度決算と今後の方針等を問いました。

災害復旧の仕組み「原形復旧の原則」は、現況に対応していない

●近年、豪雨災害が頻発している。被害が年々大きくなっているが、国の「災害復旧制度」は、原形復旧が原則だ。名蓋川は、今年も含めて3回も決壊しており、私の作成したグラフ資料からもわかるように、災害復旧費の増加傾向が進んでいる。災害復旧関係事業における財源については、国庫負担は2/3以上、残額は交付税措置により、実質的な地方負担は最大でも1.7%程度となることは評価できるが、現在の大きな課題は、災害復旧にかかる「原形復旧の原則」がその一つとなっている。災害により被害を受けた個所を原形で直すという「制度の根幹の矛盾」を、より強固に「復興」可能な制度に改善していくことが急務ではないか。

【知事当局答弁】 ご指摘のとおり、制度の根幹にかかわる課題と認識している。現況の課題を政府要望等を含めて調整し、より、災害に強い県土づくりを進めていく。



災害復旧費の推移(高橋作成)

宮城の子どもたちの学習時間が最近、さらに著しく減少している

●県内児童生徒の家庭での学習時間の指標で、小学6年生で30分以上学習している児童の割合が令和元年度94%だったものが、令和3年度は90.1%に下がっている。高校2年生は2時間以上の学習時間を目標にしているが、令和2年度19.2%だった割合が、令和3年度は13.7%に大幅に落ち込んでいる。非常に深刻な状況であり、「家庭教育の危機」を強く政策として打ち出すことが必要だ。

【教育長答弁】 学校現場で家庭教育の重要性を訴えているが、結果としてこのような数値になった。教育だけでなく福祉側のアプローチが必要な状況も増えている。学校、地域、家庭が連携して、現況を改善し、しっかり見直していく。

県が先行して環境政策のモデルにチャレンジを

●日本は、国連に提出したNDC(パリ協定の批准国が提出する温室効果ガスの国別削減目標のこと)で、2030年度までに温室効果ガスを46%削減する目標を世界と批准している。国も地方自治体も、字通り「率先垂範」して、脱炭素化を先導的に実現し、民間をリードしていく姿勢が求められる。しかし、時代に合った環境政策の新たな先進モデル事例、たとえば、ゼロエネルギービル(Zeb)の公共施設や「クレジット」等の事業が、我が県では少ない。財政規律とともに「環境規律」も必須となっている中で、今後の改善方針を問う。

【知事答弁】 ご指摘を認識しつつ、我が県では「みやぎ環境税」を財源とした環境事業が実施可能であるので、新たな「みやぎゼロカーボンチャレンジ2050」プランの実施に向けて、環境部門だけでなく全庁をあげ、環境本部制をとり推進していく。

「ひとめぼれ」だけで、産地競争と、気温上昇に対応できるのか

●地球温暖化の観点から、米価とそのブランド、農業振興について伺う。農業においては、令和3年度は宮城米の価格低下が大きかった。現況は、資材高騰からさらに厳しい経営状況になっている。宮城米の主力「ひとめぼれ」は冷害には強いが、高温障害等、温暖化への対応は難しいという指摘がある。産地間競争に勝ち、特Aランクを獲得・持続できる新たな全国ブランドを求める声は、非常に大きい。今後の方針を問う。

【農政部長答弁】 試験研究機関と連携し、高温に強く食味の優れた水稻品種の育成に取り組んでいる。また、喫緊の課題である資材価格等の高騰にも対応措置を講じ、新たなブランド化も含めて、農業振興の計画実現に邁進する。



県議の1カ月 (高橋宗也10月)

県議会議員の活動って、普段どんなことをしているの? というご質問をよくいただきます。感染症対策に留意し活動しています。主な議員活動について、10月を例にご紹介いたします。



- 10月 1日(土) 保育所運動会(東松島市)
- 10月 2日(日) 矢本東地区民まつり(東松島市)
- 10月 3日(月) ナイジェリア政府視察対応(東松島市)
- 10月 4日(火) 県議会定例議会(仙台市)
- 10月 5日(水) 県議会定例議会(仙台市)
- 10月 6日(木) 県議会定例議会(仙台市)
- 10月 7日(金) 県議会定例議会(仙台市)
- 10月 8日(土) 全国畜産共進会(霧島市)
- 10月 9日(日) 若鷲杯野球大会(東松島市)
- 10月10日(月) 県議会定例議会(仙台市)
- 10月11日(火) 県議会定例議会(仙台市)
- 10月12日(水) 県議会定例議会(仙台市)
- 10月13日(木) 県議会定例議会(仙台市)
- 10月14日(金) 県議会定例議会(仙台市)
- 10月15日(土) 日台交流サミット(高知市)
- 10月16日(日) 日台交流サミット(高知市)
- 10月17日(月) 県議会定例議会(仙台市)
- 10月18日(火) 県議会定例議会(仙台市)
- 10月19日(水) 県議会定例議会(仙台市)
- 10月20日(木) 市役所打ち合わせ(東松島市)
- 10月21日(金) 県議会予算特別委員会(仙台市)
- 10月22日(土) 市民文化祭(東松島市)
- 10月23日(日) なないろの芸術祭(東松島市)
- 10月24日(月) 南スーダン政府視察対応(東京都)
- 10月25日(火) 燃料高騰対策打ち合わせ(東松島市)
- 10月26日(水) 環境政策打ち合わせ(東松島市)
- 10月27日(木) 東松島市社会福祉大会(東松島市)
- 10月28日(金) 休日
- 10月29日(土) 原子力防災訓練(東松島市)
- 10月30日(日) 縄文まつり(東松島市)
- 10月31日(月) 東松島市遺族会移動研修(仙台市)



東松島市遺族会移動研修会



東松島市民文化祭オープン



会派事務局長を拝命、知事と意見交換

ウクライナチャリティコンサート 東松島ライオンズクラブで実施

七夕の夜、東松島ライオンズクラブ(奥田恵子会長)の主催によるウクライナ支援チャリティコンサートが開催されました。同国から避難してきた2歳のニキータくん、満席の市民のみなさまとともに、演奏者のヘンリさん、順子さんのヴァイオリンとピアノを堪能いたしました。

集まった募金の総額は82万2,000円。会長とともにウクライナ大使館に出向き、直接、市民の善意を寄付することができました。大使館には、困難な状況にあるウクライナの写真が掲示されています。被害者救済に向け今後も支援と協力を継続していきます。



海外被災地から東松島市へ 復興情報の共有

10月、JICA(国際協力機構)による「ナイジェリア復興支援」の一環として、日本の復興事例及び学校復興の事例視察に、同国政府の幹部職員14名が東松島市を訪問いたしました。

一行は、東松島市立宮野森小学校を視察。太鼓演奏で児童から歓迎を受けたのち、校舎や教育状況を見学。市民センターで東日本大震災の状況と復興の現況・課題の講話及び意見交換を行いました。

1月には、ソマリア政府調査団が、東松島市を視察する予定です。東松島市はJICAと連携協定を締結しており、私も前職時代から復興支援員として、微力ながら参画させていただいています。



「県と市」合同で現地調査 土木関係施設・農林水産業

東松島市では、県・市当局と市議・県議が一堂に会し、共通理解を深めながら課題解決にあたる合同現地調査を実施しています。

7月の宮城県豪雨災害の農業被害は深刻で、大豆やジャガイモ等が大きな被害を受けました。3日間以上、冠水していた農地もあります。今年は、赤井・中江川の堤防改良や牛網池の整備などについて、具体計画や実施年次が示されるなど、県当局から早期整備に向けた方針が示されました。

県道・港湾等の土木事業も含め、引き続き県・市連携して、地域課題の解決を進めてまいります。



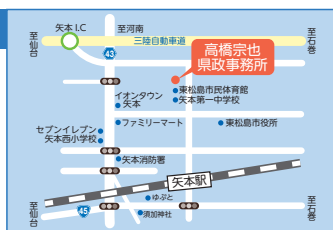
編集後記

コロナ禍で中断していた、国内外からの東松島視察が再開いたしました。海外視察団のご案内をするたびに新たな気づきがあり、質問にも驚かされることがあります。例えば東松島市の森の豊かさや、田園景観の美しさについて、そうだったのか!!と改めて考えさせられました。また、直接対面で聞く生の情報も貴重です。今年来日したナイジェリア政府高官からは、干ばつとウクライナ紛争の両面から、食糧難が深刻とのことでした。被災地間、国際間の連携を進めていきたいと思っています。

11月から県議会会派の事務局長を拝命いたしました。県執行部との調整や会派運営などを含め、議会県政の最前線で仕事をする機会をいただき、身の引き締まる思いです。引き続き、頑張っております。

発行者・事務所

発行者 宮城県議会議員 高橋宗也
事務所 郵便番号 981-0504
東松島市小松字上浮足115
(市民体育館前)
電話 0225-83-5880
メール shuya@kind.ocn.ne.jp



フェイスブック、インスタグラム、ツイッター

高橋宗也 検索 ※お友達の申請・フォロー歓迎いたします。

お茶の間懇談会 県政懇談会

県政懇談会を随時開催いたします。

※新型コロナウイルス拡大防止対応のため、リモート・少人数での開催となります。開催の希望がありましたら、お電話、または郵便、メール等でお気軽にご相談ください。



お問い合わせ先 高橋宗也県政事務所 TEL.83-5880